

THE ROTARY CLUB OF KARIYA



Weekly



創立 1954年 3月 8日
承認 1954年 3月 30日

例会日時 毎週月曜日
12:30 ~ 13:30
例会場 刈谷市新栄町 3 の 26
刈谷商工会議所内
事務所 TEL <0566>22-2111
FAX <0566>25-2111
メール kariyarc@katch.ne.jp
ホームページ http://www.kariya-rotary.com
会長 内藤 昇
幹事 磯部 一智
会報委員長 花井 淳

2024 ~ 2025年度 国際ロータリー ステファニー A. アーチェック 会長テーマ

THE MAGIC OF ROTARY ロータリーのマジック

この会報は、地球環境保全に考慮し再生紙を使用しています。

第3254回例会プログラム

[当年度=13回目；当月=4週目]

2024年（令和6年）10月28日(月)

1. 例会……………〈司会：プログラム委員会〉

- 12:10 〈食 事〉
12:28 1. チャイム
12:30 2. 点 鐘……………〈副会長〉
3. 開会宣言
4. ロータリーソング斉唱……………日も風も星も
5. 講師・ゲスト並びにビジター紹介
6. 副会長挨拶並びに副会長報告
7. 退会会員挨拶……………相吉 宏二 会員
8. 幹事報告
9. 出席報告
10. 委員会報告
11. ニコニコボックス報告
12. 次週並びに次々週のプログラムの予告
(11/4) ……休 会（法定休日）

(11/11) ……

クラブフォーラム（ロータリー財団委員会）

講師 みんなの居場所「ほっとライス」

代表 竹上 富彦 様

（紹介者 神谷 強 会員）

※健康診断（職業奉仕委員会）

2. クラブフォーラム……………〈米山記念奨学委員会〉

- 13:00 卓話 「米山記念奨学事業について」
講師 地区米山記念奨学委員会
委員 高木 優州 様
(愛知三州 RC)
(紹介者 角谷 広高 会員)

13. 謝 辞
14. 点 鐘……………〈副会長〉
15. 閉会宣言
13:30 16. 散 会

出席

会員総数 96名 出席免除 24名
出席義務者+免除者の内例会出席者 91名
欠 席 8名 出席率 91.21%
前々回（10/7）の修正出席率 100%

幹事報告

- 1) 本日例会終了後に特別会議室にて、第5回の理事会を開催致します。関係の会員はご参加をお願い致します。

副会長あいさつ

佐野 眞琴



今回初めて会長の代理として、ご挨拶を申し上げます。どうかよろしくお願い致します。

さて、長くて大変暑かった夏も終わり、漸く秋めいてきた今日この頃ですが、このような中、先週は観劇

家族例会が御園座で開催され、「錦秋花形歌舞伎」を鑑賞する機会を頂きました。歌舞伎の舞台に魅了された一日となりました。

次に本日のお話ですが、かつてと申し上げても、かなり前のことになりますが、テレビでアメリカの西部劇が放映されていた時の話ですが、インディアンが何かの場面で「インディアン嘘つかない。」と右手を挙げてというのが特徴的で、皆さんの中にも覚えて見える方もいらっしゃると思います。もっとも40代以下の皆さんは、ご存知ないと思いますが。

先日当社の現場で質問をしている時に、まさにこの言葉が、師匠である林南八氏の叱声とともに思い出されました。

現場で、現在の稼働状況の実態を表す指標のデータを見せて欲しいと要望すると、「パソコンに入っているの、すぐに出せない。」との返事。その瞬間、林氏の「インディアンとコンピューター嘘つかない。だけど聞かないと答えない。」がよみがえってきました。

卓話 「米山記念奨学事業について」

講師 地区米山記念奨学委員会

委員 高木 優州 様



本日は卓話にお招き頂きありがとうございます。私は愛知三州 RC から出向しております地区米山記念奨学委員会の高木優州と申します。刈谷 RC の皆様におかれましては日頃より米山記念事業に対しご理解と共に約6500万円もの寄付を頂き、そして13名もの米山奨学生をお世話頂きました。ありがとうございます。

本事業は日本のロータリーの父である米山梅吉翁の功績を永遠に偲ぶことのできる有益な事業をやるのではないかと、東京 RC の古沢丈作によって米山基金の構想が発表されスタートしました。それから古沢の思いを受け継ぎ、時代にほんろうされながら財団設立、奨学生とロータリアンの結びつきを強くし心を育てる「世話クラブ・カウンセラー制度」が整えられ、ロータリアンの強いリーダーシップによって本事業は成長し、これまでの努力の結果24000人を越える奨学生を送り出してきました。

本事業の使命は「将来、日本と世界とを結ぶ「懸け橋」となって国際社会で活躍し、ロータリー運動の良き理解者となれる人材を育成」と、それによる「平和と国際理解の推進」です。

この使命を果たすために重要な役割を担っているのが人を知り、文化を知り、お互いへの関心を深め小さな平和の創造を実践していく世話クラブ・カウンセラー制度です。この制度を通して奨学生が得られた掛け替えのない時間に感謝し、その受けた恩を返すために感謝の心を忘れず奉仕活動や日本と母国をつなげる架け橋として学友活動を続けています。この日本が誇るロータリー米山記念奨学事業は感謝の心を作り、未来へ続く学友活動の源泉です。そしてその活動の連鎖が世界平和と国際理解の役割を徐々に果たして行きます。

この事業が皆様の協力のもと70年も継続することが出来たのは、この活動を理解し、一緒になって活動する中で、その本質に触れ、何か温かいものを感じて頂けたからではないでしょうか。奨学生を応援し、また卒業後の活躍を知り、自分たちが勇気づけられ、事業への思いが大切なものとなっていく。その思いがあり続けられれば、本事業の使命を確実に果たすことが出来ると考えます。今後とも日本を大切に思い、世の中のために活動する人材を育む本事業にご支援を頂ければと思います。

本日はご清聴ありがとうございました。

現場で異常かどうかをすぐ判断する為のデータが、きちんと取れてはいるが、コンピューターに入っていたのでは、すぐに使えませんし、問題点を迅速に改善することもできません。

目で見る管理といいますが、これでは見えません。データをコンピューターに入れて以上終了ということになっているケースが、私の周囲でも散見されます。

コンピューターにデータを入れることが仕事になっていて、データを改善に使っていないことを林氏は厳しく指摘していました。

コンピューター社会の今、いろいろな職場で同じようなことが起きていると思います。

お互い考えていきたいですね。

先日ある会社で、サイバーテロのリスク確認をしていた時に、発生時の対応マニュアルや緊急連絡先の内容と保管場所を聞いたところ、コンピューターに入っていないとの回答でした。サイバーテロでコンピューターがダウンしたら使うことはおろか見ることもできません。ここまでくるとはや笑い話ですが、事態は深刻です。至急保管の仕方を直してもらいました。

本日は以上です。



退会会員あいさつ



相吉 宏二 会員